

☆☆めざす児童像：「元気な子 気づく子 学ぶ子」☆☆

大村市立大村小学校
学校だより

感じて動く

文責：校長 高木 修
令和4年6月30日 No.7

☆☆子どもが「喜んで登校し 満足して下校」する学校づくり☆☆

◆「命の講話」 6月27日（月）全校朝会にて



平成15年7月1日、長崎市においてとても痛ましい事件が発生しました。加害者が中学1年生であったことから、翌年度より「命の大切さ」や「人を思いやることの大切さ」そして、「あこがれや将来への志を持つこと」等についてじっくり考える期間として、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が始まりました。県内すべての公立学校において、5月から7月の間で1週間を設定し、毎年、本週間に取り組んでいます。本校では、6月27日（月）～7月3日（日）が本週間ですので、初日に全校朝会を開き、校長講話を行いました。内容は、「命の授業」（ダイヤモンド社発行）の著者である、腰塚勇人（こしづかはやと）さんのお話です。

中学校の体育教師だった腰塚さんは、スキーでの事故で首の骨を折り、首から下が全く動かなくなります。しかし、奥さんや両親、同僚や教え子たちの応援や励ましを受け、「自分の命があらゆるものに助けられ、生かされていること」に気づき、「笑顔」と「感謝」と「周りの人々の幸せを願う」ことにより、奇跡的な回復力を発揮し、4か月で学校復帰を果たされます。

こういう体験をされた腰塚さんの言葉にはとても説得力があります。腰塚さんは、依頼を受けて行った講演を通して、自分だからこそ伝えられることがあるのだということを感じ、それを自分の使命として生きていこうと決意されます。だから今、腰塚さんは、教師をやめ、「講演家」として全国各地で「命の授業」を行い、生きることの素晴らしさや、命の大切さを伝える活動を続けておられます。実は4年前に、「長崎県PTA研究大会」が大村市で開催されたときの記念講演の講師が腰塚さんで、私も直接「命の授業」を受けさせてもらいました。

命があること、生きていることは決して当たり前ではありません。だから、腰塚さんは、「自分と他人の命を傷つけない」ために、そして、「命の喜ぶ生き方をする」ために、「5つの誓い」を決めておられます。誰にとってもかけがえのない命です。命があること、生きていることに感謝をし、自分の命も周りの人の命も大切にできる人になりたいですね。

腰塚勇人さんの「5つの誓い」

- ① 口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
- ② 目は人のよいところを見るために使おう
- ③ 耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう
- ④ 手足は人を助けるために使おう
- ⑤ 心は人の痛みがわかるために使おう

◆「ココロねっこ運動強調月間」

全国的には内閣府において、昭和54年以来、毎年7月を「青少年の非行・被害防止全国強調月間」と定め、青少年の非行・被害防止対策の推進を呼びかけています。それにあわせて長崎県では、7月を「ココロねっこ運動強調月間」と位置づけ、家庭・学校・地域社会・行政が一体となり、青少年の健全育成と環境浄化を目的とした「ココロねっこ運動」を集中的に実施することとなっています。

「ココロねっこ運動」とは

子どもたちの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる長崎県の県民運動です。

長崎県では、あいさつ運動や地域で子どもを見守る活動など、子どもの健全育成のための取組を「ココロねっこ運動」として推進しています。



～大人が変われば子どもも変わる、できることから、大人から～

■「ながさき基準」知っていますか？

これは、「長崎っ子のためのメディア環境協議会」が提案したもので、青少年のネット・電子メディアの遊びや楽しみとしての利用を夜9時までとすることで、ネット・電子メディアの適切な利用と、青少年の心身の成長・発達への悪影響を減少させることを目的としています。このことは、大村市PTA連合会でも、子どもを守るための共通ルールとして家庭に呼びかけています。

是非、「親子のルール」の中への位置づけをお願いします。



■ 毎月第3日曜日は「家庭の日」です

「家庭の日」とは、家族そろっての団らんの機会を増やすことによって、愛情と信頼に結ばれた温かい家族関係を育てる契機とするための日です。長崎県では、「ココロねっこ運動」の取組の一つとして「家庭の日」を推進しています。家族の時間を大切にしたいですね。

◆平和学習



6月27日（月）に、5、6年生は平和学習を行いました。講師は、高校時代、平和大使として国連本部でスピーチを行うなど、平和活動に積極的に取り組んでおられる山西咲和（やまにしさわ）さんです。現在はマレーシアの大学に在学しておられます。「家族がいつでもどこからでも、青い空を見られる世界をつくりたい。」「世界中に平和の花を咲かせる人になりたい。」と、柔らかい口調ながらも力強く芯の通った言葉がとても印象に残りました。子どもたちからの質問にも、丁寧に答えてくださり、45分間があっという間でした。

5、6年生にとって、とても有意義な時間となりました。